＜先週の説教から＞

『ヘブライ㊲ー息子を献げてしまった』

武田真治牧師

創世記 ２２:１～１４　ヘブライ書 １１:１７～１９

アブラハムの生涯を通して、私たち自身の生き方や信仰のあり方を示されています。彼は生涯を旅人として生き、定住することをせず生きてきました。それは神様からの「父の家を離れて、わたしが示す地に行け。そうすればあなたの子孫は祝福される」という約束を信じて歩んで来たからでした。そして待望の息子イサクを与えられ、いよいよその約束が実現して行くと思っていた矢先、なんと神様はその「イサクを（神様への）捧げ物としてささげよ」と命じられるのです。アブラハムは神様の意図やご計画が全く分からなくなってしまったのではないでしょうか？　それでも、彼はその命令の通りに淡々とモリヤの山上にイサクと共に行き、祭壇を築き、その上に薪を並べ、イサクを献げようとしたのでした。昔からこの時のアブラハムの心境や行動の意味について様々な解釈が為されて来ました。色々な読み方ができることでしょう。ただ、このヘブライ書はこの点について、どう考えているかが、今の私たちに与えられている課題です。

ヘブライ書は、この神様の命令について、一方で「この独り子については、『イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる』と（神様が）言われていました」。しかし、そのイサクを「献げよ」と神様が命じられることは“矛盾している”ことだと。しかし、それなのに「約束を受けていた者（アブラハム）が、独り子を献げようとしたのです。」と。まさに、この一見、矛盾しているような神様の命令を受け入れ、彼は“従順に”従っていると、それはなぜかと考えるのです。

その結果、このヘブライ書が思い至ったことが「アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいました」ということなのです。即ち、必ずイサクから子孫が生まれて来ると約束してくださった神様が「そのイサクを献げよ」と命じておられるのだから、たとえ今ここで自分がイサクを献げたとしても、必ず神様は再びイサクを戻してくださる、生き返らせてくださると“信じた”と。そうでなければ、こんな《理不尽なこと》を受け入れて従うことは出来ないと。神様が“死を越えても”再びイサクを戻してくださる、これは“復活信仰”ではないかと。まさにアブラハムは旧約聖書では珍しい復活信仰に到達したのだと。それ故、新約の私たちの信仰に通じる“信仰の父”でもあると言うのです。

よくこのイサク奉献は“信仰の試練”と言われます。不条理な出来事も神様が私たち信仰者に与えられたものと受け止めて行くことが出来るかと問われる“試練”だと。出来ればそのような試練など受けたくはないですが、それでもそのように感じてしまう時には、このアブラハムのようにその信仰が大きく飛躍させてもらえる時に変えられると。それを信じて、忍耐と希望を持って生きて行きたい！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．１月 18 日（水）20：00
　　Ⅱ．１月 19 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　シャロームの会を覚えて
担 当 者：　（水）浦野　（木）高橋
祈りに覚える人：　伊藤さん　伊藤さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男　23　　女　59　　計　82
祈祷会　Ⅰ．男4　女3　計7　　Ⅱ．男3　女12　計15
日曜学校　　幼稚科 5　小中科 6　　計　11

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週主日礼拝】　１月　２２日（日）

聖　書：　出エジプト記　２：１１～２５
　　ヘブライ人への手紙　１１：２３～２６
説　教：　「ヘブライ㊴ ― モーセの信仰！」
　　武田 真治 牧 師
讃美歌：　１２７(1)、３２(1)、４６３(1と2)、
　　１２０(1～4)、２７

【次週当番表】

司式:保坂長老　奏楽:須田　礼拝:茨木長老
献金：飯島　飯田　　受付：金剌　坂田
会堂準備：大野　勝村　黒澤　西尾
看板：中村　　週報：飯島　　お花：飯島

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・礼拝/牧会/伝道/教育/社会 各委員会

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　１月　１５日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　**武田　真治**

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/